

## 第6回新宿区文化芸術振興会議（第4期）議事要旨

■開催日時 平成30年7月4日 午前10時から午前11時30分まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松島貴美子 的場美規子 大野順二

中島隆太 大和滋（欠席 松井千輝 沼井利枝 舟橋香樹）

\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 村上文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 唯野主任

■議事の進行

### 1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

### 2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について  
資料1に基づき、前回会議（平成30年3月23日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 報告事項  
「私たち区民」による文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて  
資料2-1及び資料2-2に基づき、事務局が説明を行った。
- (3) 調査審議事項  
資料3、資料4に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。
- (4) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・新宿センターの開館40周年に向けて記念公演を実施ということで、クラシックコンサートや狂言の会というのが載っているが、文化センターは音楽とバレエなどのダンスの2本柱で行くという話なので、狂言ではなく、バレエを取り入れたらどうか。
- ・「AR機能の構築」の中で、ゴジラを出現させる機能構築と書いてあるが、ゴジラを特使として推すのであれば、もう少しゴジラに関連したイベントというのを打ち出して、それでこそWi-Fiにつないだときにゴジラが出現する意味が生まれてくる。
- ・平成31年度、平成32年度の取り組みについて、「和を伝えるプログラム」は、外国人観光客を含む来街者を対象としているので、オリンピック・パラリンピックの期間にやる予定はあるのか。
- ・「新宿クリエイターズ・フェスタ」の期間が、今は8月1日から10月8日までという

期間だが、オリンピック期間を意識して7月に前倒しする予定はあるのか。

- 「観光情報誌」は年2回発行で、9月に発行されているが、来街者の方に見ていただくために、例えば2020年は7月に発行してはどうか。
- オリンピック・パラリンピックの区民協議会では、例えばフィールドミュージアムなど文化の祭典というのは役割を果たしていると理解されているが、オリンピック・パラリンピックに絡んだ企画、例えばスポーツとアートの融合のようなものを展開するというのがなかなか難しいのではという意見があった。
- 新宿文化センターでも企画などを検討していますので、ぜひその中でオリンピック・パラリンピックに絡んだイベントで機運醸成につながるようなものを企画してほしいという意見も上がっている。
- 新宿文化センターは方向性をはっきりさせたのであれば、その方向性が明確にわかるような形のほうがいいと思うので、バレエと音楽ということでやっていくのであれば、筋を通して、明確にわかるようにしていったほうがいいのではないかと。
- 「和を伝えるプログラム」は、昨年度の参加人数は延べ860人で、外国人の方の参加者数というのはもっと少なくなっている。広報の充実や、外国人に対してはもう少し別なアプローチがあると思うし、外国人にしぼるのか、外国人も含めて日本人の方に日本文化を伝えるという趣旨でやっていくのかというのは明確化すべき。
- 2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、それに関係する何かをやったほうがいいのではないかとということだが、文化芸術面から考えるのは少し難しいのではないかと。この場合は、外国人観光客に少し配慮したり、そういう面で考えていったらどうか。
- 漱石山房記念館もオリンピック・パラリンピックのときだけではなく、息長くいろいろなことができると思う。さまざまな企画を関係の方からいただいて、もっといろいろなことができそうな気がする。あそこは1つ売りになる、新宿区の重要な文化スポットだと思う。
- 今まで歴史博物館が新宿の文学者について扱っていたが、歴史博物館との関係というのか、漱石だけではなく新宿区の文学者関係の研究を担ってきたが、それがどういう関係になっていくのか。一緒にやっていくのが一番いいと思う。
- 漱石山房記念館では、イベントも大事で、同時に足跡の研究や作品の周囲の文学的な研究も大事。例えば、学芸員の方が中心になって機関誌を出し、そこに研究の成果を出したり、一般の人へのPRをしたり、漱石山房だけではなくて文化的な遺産を蓄積して、調べていく方向性が大事だと思う。
- 日本のバレエもあるし、歌舞伎も海外ですごく受けている。
- 2020年に向けて、いかにメディアに訴えるかということはずごく大きいと思う。海外から相当数来ると思うが、スポーツばかり特集するのではなく、日本のまち、東京のまちもある程度取材すると思うので、そこをいかにアピールするかということが重要になってくる。
- 「音楽鑑賞教室」は生徒数が増えている。じっと聴いているというのではなくて、積極的に参加して、歌うときは本当にはつらつと歌うし、聴くときは静かに聴いていた。先生方も威圧的に静かにさせるとかではなくて、新宿区の子どもたちは伸び伸びと暮して

いるのだなというふうに感心した。

- 文化センターの食堂はレトロで昭和の食堂みたいな感じで意外といけると思った。あまりハイカラなものを追求するのではなく、それこそパスタではなくナポリタンというような感じがすごくいいと再認識した。
- 文化センターの企画は財団と区が連携してやっているのはいい方向性だと思う。
- 文化センターの方針で掲げた音楽と舞踊の利用が60%を超えてきたということで、実態も方向性と合って動いている。東京都内のホール環境がどんどん変わっているので、きちんとした方針を打ち出して、具体的に条例改正や、運用面できちんとやっていかないとまた変わっていつてしまう可能性もあり、柔軟な運用体制をとっていかないとけないと思う。
- 組織委員会の文化事業がどうなるかというのと、東京都では「Tokyo Tokyo FESTIVAL」というのをやろうとしていて、それがどういう中身になるかによって、また少し動きが出てくると思う。それを見極めながら進めていただければと思う。
- オリンピック時期は、事前に訪れる方も結構多い。競技をやっている最中というのはお客さんも限られて、観光客はその前に来ることが多い。世界のマスコミも7月に集中して来て、事前報道するということがあるので、新宿区としてどういう事業を展開するかというのを具体的に考えたほうがいい。
- 2018年から新宿フィールドミュージアムの充実を行い、プログラムの充実など具体的な取り組みを2020年までに深めることになっている。2020年以降は一体どういうことをやるかという部分、次期に話し合えばいいと思う。
- 計画や数値目標ができたので、重要なのはこのプランを実行していく上でどうチェックしていくかということ。例えばターゲット年齢層別にプロットダウンしたり、時期的に例えばクォーター別に分けてプロットダウンしてみたり、イベントが行われている場所をプロットダウンしていくという手もある。全体を俯瞰するようなプランになっているかどうかチェックが必要。
- 文化ホールのダンスや音楽は、ターゲットとする人たちがいると思うので、それがきちんとプランの中に意思をもって反映できるかどうかということが、これから非常に重要になってくる。
- 今回の報告書(案)を作成するにあたって、特に今までよりも踏み込んだ形になったのは、数字目標も入れたということがある。これは文化の分野でやりにくいところだが、多分達成できるところで、かつ、積極的な姿勢も見られるような数字が出たと思う。
- 「区の新しい総合計画」の中にきちんと文化を位置付けたということは非常によい。区の大きな計画の中に非常にはっきりと数字をもって位置付けられたということで、区としての取り組みもしやすくなったと期待している。外に向けての発信と、スタンスが明らかになっているので、協力も得やすくなる。
- オリンピック・パラリンピックは非常に大きなチャンスなので、これだけのものを行っている新宿区というイメージを世界に発信するという意味で、またとないチャンスでもある。誰かうまくコーディネートをして、スポーツとの関係であったり、ほかの施設との関係であったりを構築する。
- 最近ミュージアムでコンサートをしたり、ホワイエでギャラリーをしたり相互乗り入

- れが結構ある。ユニークベニューが非常に受けている。新宿は結構あると思うので、いろいろなコンサートや小さなライブをやっているようなところと連携するとか、それをまたいろいろなミュージアムなどと連携するというコーディネーションが非常に重要。
- 誰がコーディネートするかによって目的が変わってしまうが、文化振興のセクションに頑張ってもらって、2020の後にレガシーが残るような、コーディネーション機能のほうも頑張ってもらいたい。行政が直接助成をするというのは、小さな予算の中からはなかなか難しいことなので、むしろみんなが動きやすくなるようなところに焦点を定めて、努力していくとよいと思う。
  - 文化センターは指定管理の契約をしていて、はじめに5年間の計画も立っていると思うので、裁量の余地はそんなにはないと思う。契約書に盛り込んだことはやらなくてはいいけないが、指定管理者のほうでもいろいろご配慮いただいているようなので、いい関係は結ばれていると思う。柔軟に対応していただいているということはすごくいいこと。
  - 新宿文化センター自体は本当にお客さんがたくさん来ている。もったいないのは入場率が非常に低いものもあるので、そこら辺をうまく使っていただきたい。
  - 文化の情報源は、マスコミの重要性が減っていて、新聞とかテレビに載せてもそれだて来ているという人はなくて、自分の信頼する誰かの口コミ、友達だったりブログを見ている方だったり、価値観を共有できるような人が勧めると、では行ってみようかということになる。
  - 一斉にマスコミ対応というのも大事だが、マイクロインフルエンサーの方、例えば10万人のフォロワーがいるブロガーとか、ツイッターで5万人ぐらいフォロワーがいる方々などの協力も得られるといいと思う。
  - いわゆるブロガーと言われている人たちをまとめてくれるような事業者が外部にいて、そういう人たちを積極的にイベントの内覧などに誘致して、そこが発信源になってそれを見た人たちが来るというような、そういう世の中に今、現実になってきている。ハッシュタグがついているから見ていて、アンケートをとるとブログを見て勧められたから来たとなっている。
  - 紙は若い人たちは見ないし、そもそも新聞をとっていない。ブロガーをまとめてコンタクトしてくれるようなプレーヤーも世の中にはいるので、それを1つの手段として考えながら発信していくというような、新しい時代に合ったことをやっていけばいいと思う。
  - 主婦の人たちのコーラスコンテストのようなものが新宿区の中であって、ボランティアのコーラスグループに20分とか30分、回廊でクリスマスコンサートをやらせようという企画をしている。一般の人たちが見るので、それなりのレベルが維持されていないといけないという難しさはあるが、そういう人たちが活躍する場を提供すると、ある程度コストをかけずに地域の中で持っている文化芸術が循環していくということもできると思う。
  - フィールドミュージアムもサポーター制度をとるということで、インフルエンサーの方に協力していただくのがよい。一般の方が発信したところで、フォロワーがいなくて何も広まらないので、そういった方の協力も考えていったらいいと思う。
  - 高齢者の方はSNSを見ないと思うので、紙媒体もまだ重要だと思う。
  - マスコミに取り上げられたい。テレビの取材を受けて新宿区も「文化芸術のまち」とし

て発信しているということ、ぜひ取り上げられたい。

- フィールドミュージアム、文化センターについても検討の方向性が見えてたので、今後はまち全体として文化芸術をどのように広めていくかという全体像についても議論したい。
- 新宿が持っている文化遺産はどういうものがあるか、なかなか知っているようで知らないというのがあるが、歴史的なものもあるし、芸術文化もある。
- 美術館や記念館をうまく使っていくために、どういう使い方をするかというのはそれぞれの分野の専門の方の知恵を借りて、行政はそれができるように援助して、予算を確保し、仕組みも考えていくことが必要。
- 広報は区民にもそうだが、区民だけではなくて来街者、特に外国の方にどのように知らせていくか。広報はいろいろなやり方がある。
- メディア、新聞よりもSNSのほうが実際に多いということももちろん重要。ただし、質の問題があって、芸術文化遺産、歴史ある文化遺産ではないものでも、おもしろいものがあるとそこに人が集まるというのは、それはそれで大歓迎だが、そればかりになるとテレビの芸能番組みたいになってしまう。それぞれの施設では専門の方、学芸員の方が、全体の仕組みをコーディネートすることが必要。
- 文化芸術振興というのは、お祭りでもあり人集めでもあると同時に、文化芸術の本当の重要なものの伝統をつなげていくこと、守るということでもある。そういう仕組みを、特にオリンピック・パラリンピックの時期にあわせてつくっていくのは大事だと思う。それぞれの分野の専門家の意見によって、指定管理者でもいいし、コーディネーションでもいいし、うまくやる仕組みを行政はやっていただきたい。その辺の意思疎通をうまくやっていただくというのが、全体の文化芸術振興会議を通じての感想になる。
- それぞれの分野の非常にやりやすいところ、できやすいところ、盲点なところもうまくつなげていき、それら全体を皆さんの知恵をうまく吸い上げてコーディネートしていくのが行政の役割だと思う。
- フィールドミュージアムが総合計画の中に位置付けられたということは非常にいいことだと思っていて、フィールドミュージアム自体が新宿の文化資源を顕在化するという、そういう目的もあって始められて、ここ何年かで大分顕在化されてきた。
- 文化センターのことも含めてここ2年ぐらいは具体的に取り組む時期だと思う。
- 新宿は企業、商業の集積があるので、今までフィールドミュージアムにパトロンをつけるとか、そういう議論だけだったが、ビジネスと新宿の文化全体をうまく結びつけるような展開を考えるような議論をするのも手だと思う。2020年まで盛り上げてフィールドミュージアムをやって、それ以降の継続事業をどうしていくか。多分落ち込みがあるだろうから、継続事業をするために文化芸術と新宿区内の他の資源をきちんと結びつけるような、どうすればいいのかという議論をするのも1つの手だと思う。
- 西口は大きな企業体がいっぱい入っているし、東口は小さい商業がいっぱいあるし、東西でちょうどいいバランスがあるので、そういう結びつけを、文化と結びつけるという方向性を明確にするのは、新宿区が入っていかないとできないような話だと思う。
- 西口は文化芸術系でいこうということで、西口のにぎわい創造というのはもう会議体できている。野外映画会は結構人が入っている。

### 3 事務連絡等

区長への第4期報告会は、8月29日（水）午後3時の開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

### 4 閉会

会長の挨拶をもって、午前11時30分に閉会した。